

1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

【中期目標・指標】

- 全国平均より+5ポイント以上
- NRTアンダーアチーバー 3%以下

【短期目標・指標】

- 全国平均より+3ポイント以上
- NRTアンダーアチーバー 4%以下

3. 指標にむけての取組

- 指導方法の工夫(全学級における算数科の複数体制・分割授業による指導の実施)
- NRT・CRTの結果を受けてのアシストシート(個人・学級を含む)の完全実施
- 補充学習(単元テスト70点未満児童の再テスト、複数体制による朝の活動の実施)
- 1年生からのきめ細やかな言語指導(MIMの実施)
- 家庭との連携による週末も含めた家庭学習の習慣化(10分×学年+10分)
- 土・日の10分読書
- 自分の考えを持ち、適切に表現できる授業研究の推進
- 朝の活動「言葉・算数・読書・漢字」タイムの充実
- 専科教員の有効活用を図った補充学習の実施

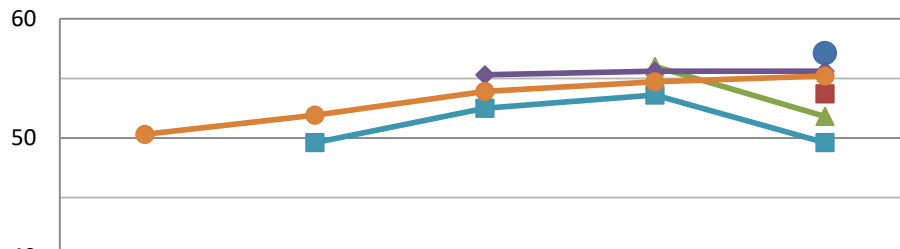
4. 調査結果

※学校平均5年間の推移

(標準偏差値50に対して)

| 年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
|------------------------|------|------|------|------|------|
| 本校(A) | 51.8 | 51.6 | 53.7 | 54.9 | 53.8 |
| 嘉麻市(B) | 50.0 | 50.8 | 50.7 | 51.5 | 51.4 |
| (A) - (B) | 1.8 | 0.8 | 3.0 | 3.4 | 2.4 |
| 標準偏差値との差 (A) - (50) | 1.8 | 1.6 | 3.7 | 4.9 | 3.8 |

各学年の推移



| | 26年度実施 | 27年度実施 | 28年度実施 | 29年度実施 | 30年度実施 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| ● 30年度1年生 | | | | | 57.1 |
| ■ 30年度2年生 | | | | | 53.7 |
| ▲ 30年度3年生 | | | | 56.0 | 51.8 |
| ◆ 30年度4年生 | | | 55.3 | 55.6 | 55.6 |
| ■ 30年度5年生 | | 49.6 | 52.5 | 53.6 | 49.6 |
| ● 30年度6年生 | 50.3 | 51.9 | 53.9 | 54.7 | 55.2 |

5. 各学校における分析

- 全校の結果は、全国平均を3.6ポイント上回っている。特に全職員による朝の活動の取り組みや算数科の複数体制などの日常的な指導充実の取り組みや保護者の協力による家庭学習の充実が一定の成果を上げているものと思われる。また、アシストシートや定着度テストの実施及び単元テストの再テスト等も効果があったものとする。
しかし、昨年と比較すると、国語科が-1.0ポイント、算数科が-1.3ポイント低くなっている。これは、思考を要する記述式の問題に課題が見られたことやアンダーアチーバーの児童が5%から8%へと増加したことが関係していると考えられ、よりきめ細やかな、個に応じた取り組みを行っていく必要がある。

6. 各学校における今後の取組

今回、記述式の問題が複数の学年で課題が見られた。これは、昨年度の全国学力・学習状況調査における課題も共通しており、各学年に応じた短期的・集中的な取り組みを行う。

(検証改善サイクルの確立)

【日常の授業や学校生活における取り組み】

- 指導方法の工夫を今後も継続する。
重点単元における複数体制(TT授業)の実施
(専科・補助教員の有効活用)
 - 読みの基礎・基本となる言語事項の取り組みをこれまで同様行っていく。
国語・・・授業(前学年のふりかえり)、「言葉・漢字タイム」、家庭学習などでの補充学習
算数・・・授業(前学年のふりかえり)、複数体制による「算数タイム」、家庭学習などでの補充学習
個人・学級アシストシートの活用・・・2学期当初の補充学習 アシストシート
(学校外補習事業の取り組み)
アシストシート全領域の活用・・・2学期後半(運動会後)
 - 授業に書く活動・交流活動を多く取り入れる。(主題研究の日常化)
・自分の考えを理由や根拠を示しながら書き交流する。 ・条件付きの作文を書く。
・式の意味を書き、交流する。 ・学習のまとめを自分の言葉で書く。
 - 講師招聘による、校内研究の実施及び授業研究による授業改善の取り組みを行う。
- 【家庭との連携】
- NRTの結果の公表を行い、これまでの取り組みとその成果、今後の課題を共有し、家庭学習の習慣化についての協力を求めていく。
 - 週末も含め、家庭学習の習慣化(10分×学年+10分)の達成率90%以上を今年度も目指していく。(2年生以上の学年では毎日、自主学習の取組を行う。)
 - 土・日の10分間読書の取組を推進していく。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進することができるように、特に、次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
 - ◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証改善委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
 - ◆授業研究による授業改善の取組を推進する。そのために、校内研修での授業観察指導及び研究推進員に対する指導助言を実施する。また、学力向上推進員による講師及び若年層の教員を対象とした授業改善指導を継続的に実施する。
 - ◆嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組の具体を提示する。